

# 豊かな藻場の復活を目指して

串間市藻場保全地域協議会  
毛久保青壮年部

宮崎県串間市

# 地域の概要



串間市漁協



串間市

串間市東漁協



# 串間市東漁協の概要

組合員数:115名

串間市

市木

毛久保港

宮之浦港

立宇津

毛久保

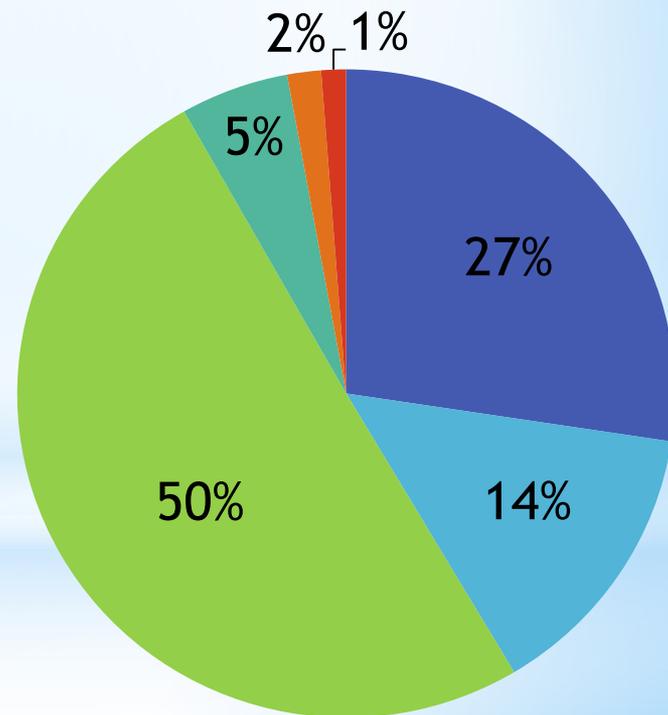
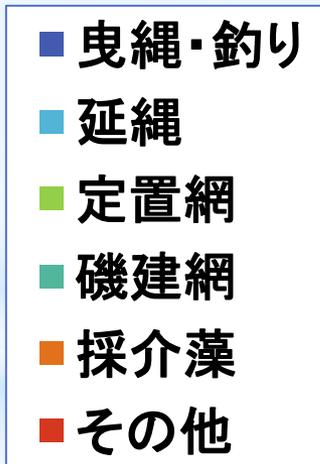
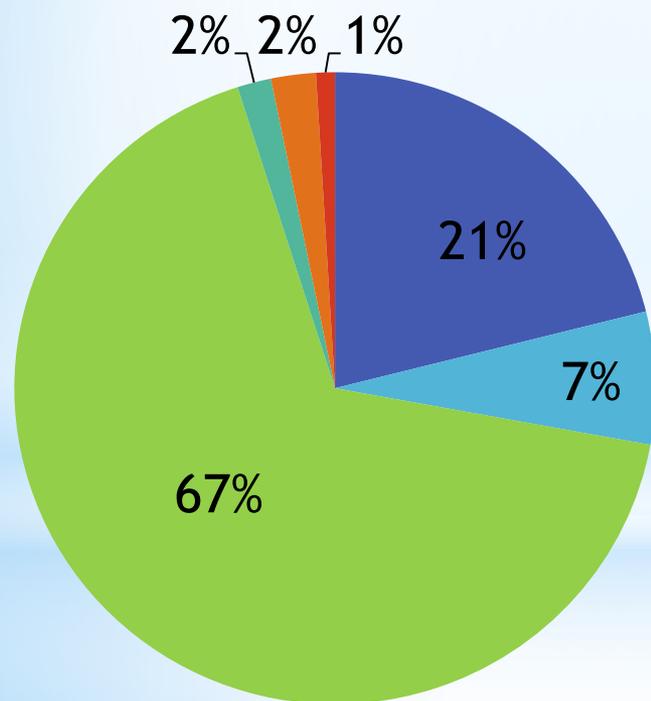
宮之浦



# 串間市東漁協の生産量・生産金額(H22)

生産量  
1,137トン

生産金額  
4億8,159万円



# 組織の構成

串間市藻場保全地域協議会



```
graph TD; A[串間市藻場保全地域協議会] --- B[崎田地区潜水グループ]; A --- C[毛久保青壮年部];
```

崎田地区  
潜水グループ

毛久保  
青壮年部

# 串間市藻場保全地域協議会毛久保青壮年部の概要

- 発足年月日 平成22年8月24日
- 構成員 11名(内訳 串間市東漁協所属漁業者11名)
- 対象資源 藻場
- 対象資源面積 1ha
- 位置図



# 都井周辺海域の現状

以前

多くの藻場が存在

- 産卵のため多くのトビウオが来遊
- ウニ、トコブシ資源が豊富



トビウオすくい  
岬ウニ(ブランド)

現在

藻場の減少・消失

- トビウオの来遊が減少
- ウニの身入りが悪く、品質が低下
- トコブシ資源が減少

漁家収入  
の減少

# グループ活動の変遷

平成13年度

- 青壮年部活動として藻場回復活動をスタート。海藻のついた天然石を移植。



- 海藻は順調に生育したが、1ヶ月後に突然が消失。魚の食害が原因と推定。

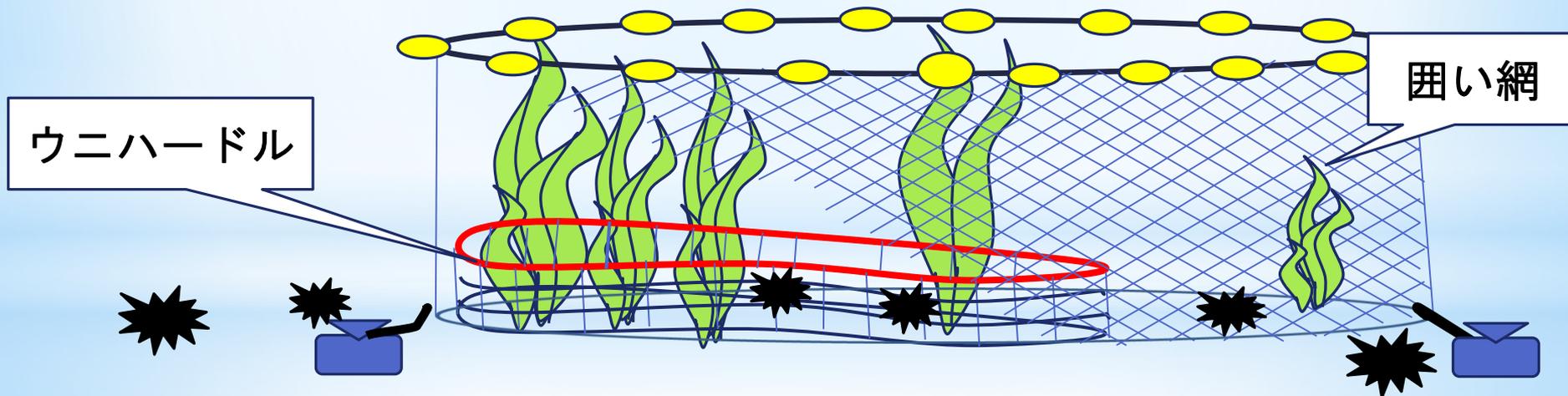
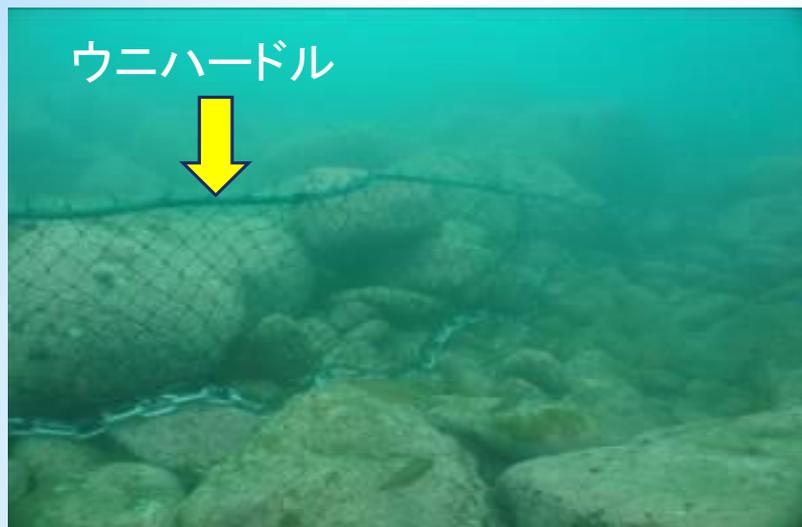
## 平成14年度～

- 魚の食害防止用の囲い網を設置し、その内側に海藻を移植。



- 海藻が約4mまで成長。以後、毎年、囲い網を設置。

# 平成19年度～



- ウニハードル設置とウニ駆除を実施。以後、囲い網とともに継続的に設置。

平成17年度

人工コンブとワカメ



平成20年度～

スポアバッグによる母藻展開



- 人工コンブにワカメの種糸を巻き付けて投入。ワカメが60センチまで成長。

- スポアバッグによる母藻展開を開始。以後、継続実施。

# 活動項目と5年間スケジュール

区分	対象資源	活動項目	実施予定年度					備考
			H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	
計画づくり	藻場	話し合い						
		計画策定、進行管理	1	1	1	1	1	
		普及啓発						
モニタリング	藻場	現状把握	1	1	1	1	1	
		効果調査						
保全活動	藻場	母藻設置	1	1	1	1	1	
		食害生物の除去 (ウニ類)	1	1	1	1	1	
		食害生物の除去 (魚類)	0	0	0	0	0	
		保護区域の設定	0	0	0	0	0	
	保全活動の項目数の合計		2 0)	2 0)	2 0)	2 0)	2 0)	

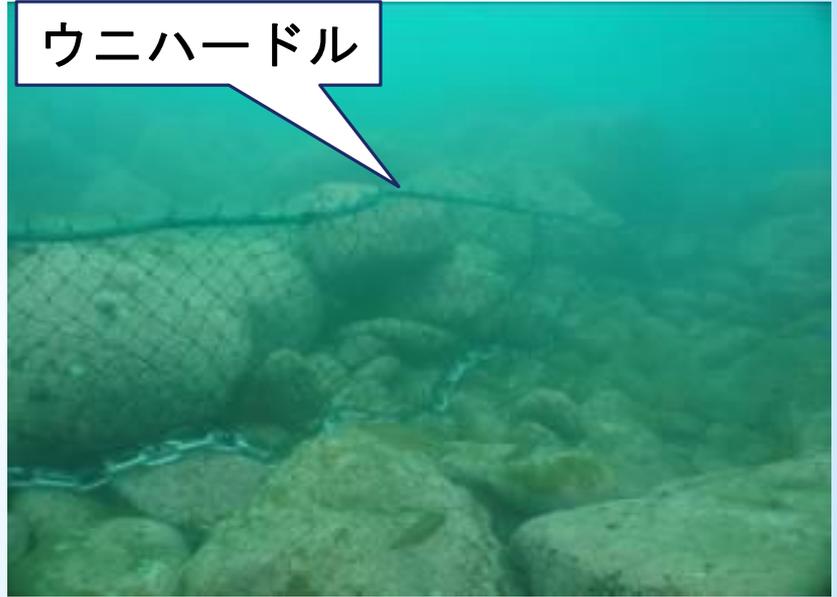


# 保全活動その1

# 母藻展開



# 保全活動その2 ウニハードル・囲い網の設置



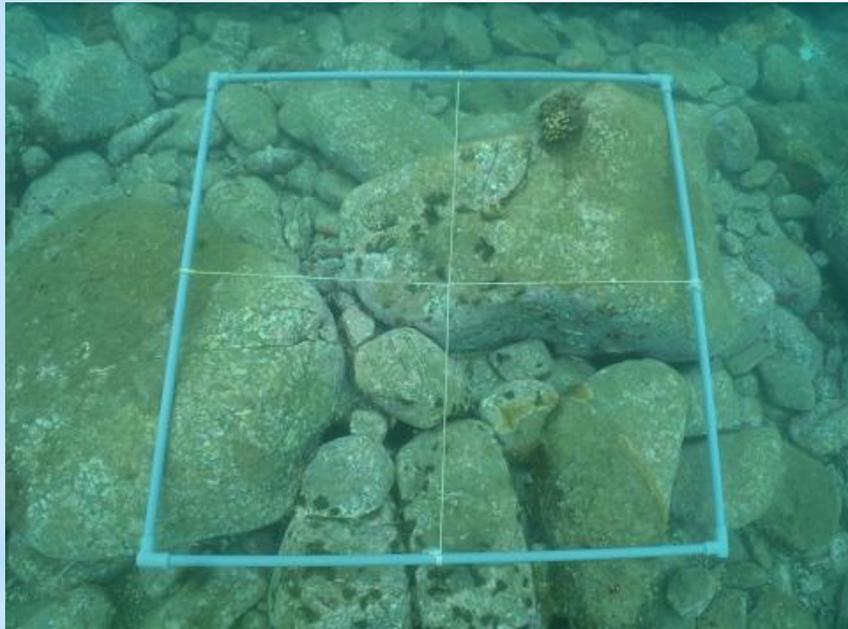
# 保全活動その3

# ウニ駆除

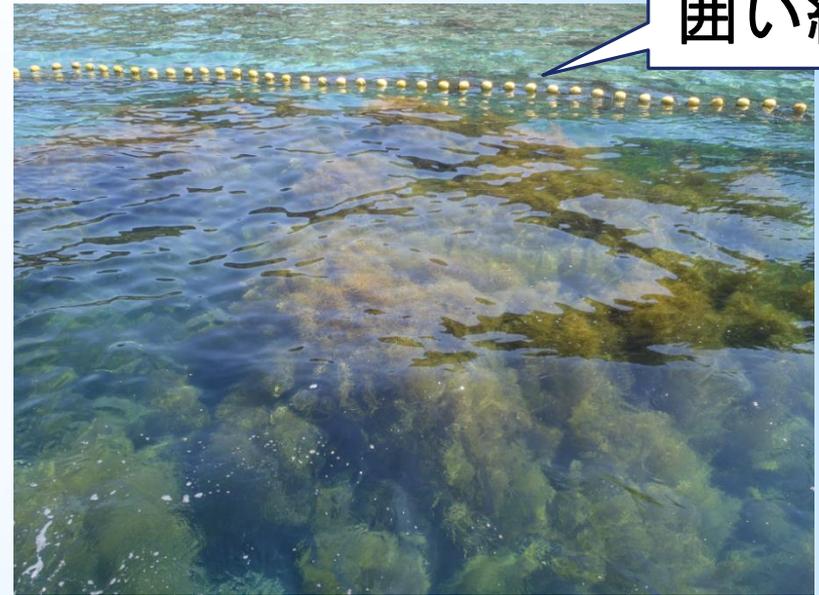


# 保全活動の効果

## 1. 囲い網



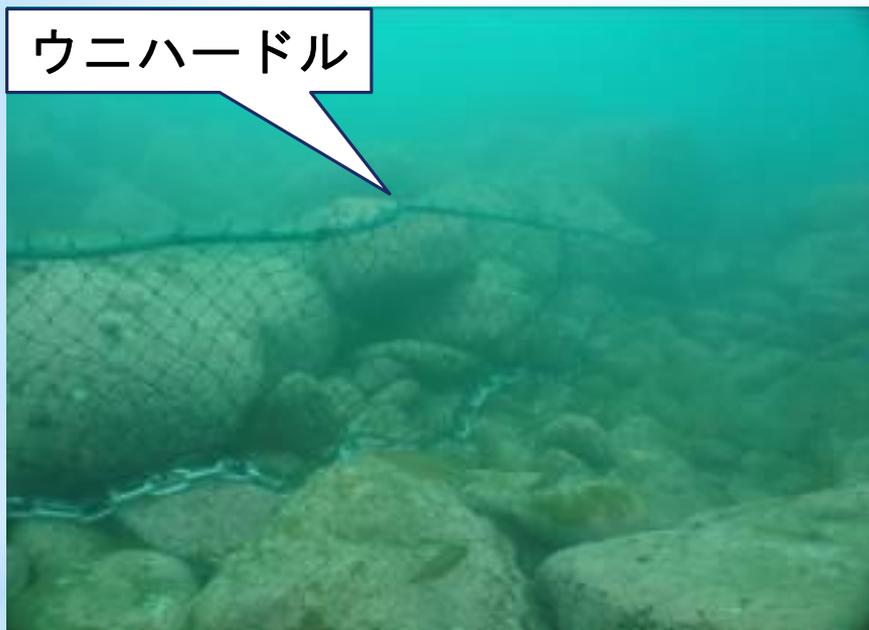
囲い網設置前の状況(8月)



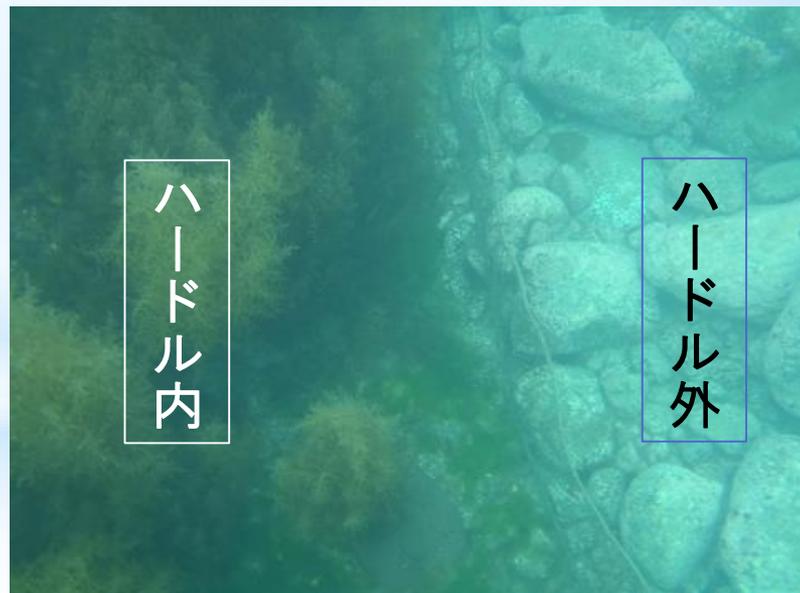
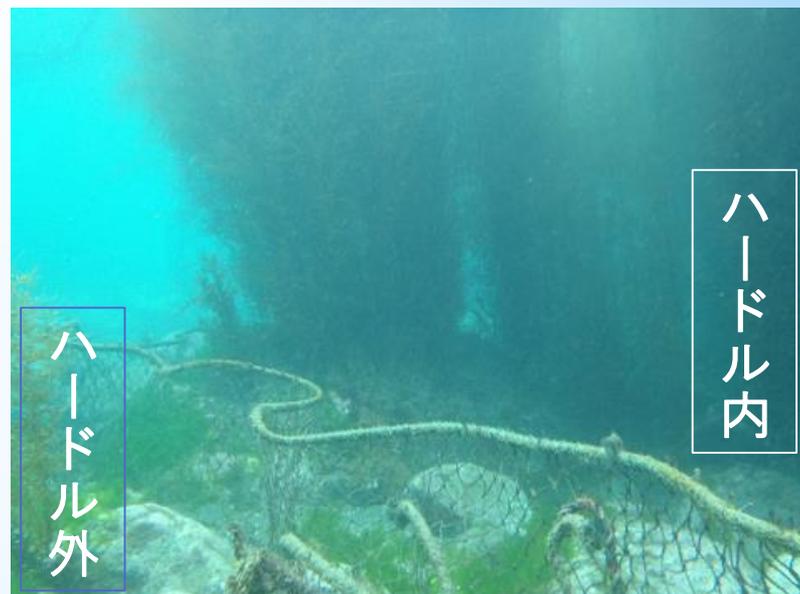
囲い網内に繁茂するホンダワラ類(翌5月)

# 保全活動の効果

## 2. ウニハードル



ウニハードル設置直後(8月)



ウニハードル内に繁茂する  
ホンダワラ類(翌5月)

# 今年度の計画

## 囲い網の設置面積拡大

- 昨年度 約450平方メートル
- 
- 今年度 約900平方メートル

追加した囲い網

従前からの囲い網



# 今後の課題・目標

- 食害魚の駆除
- 作業の効率化・省力化
- 活動グループの世代交代



藻場面積の拡大

# その他の取り組み

食害魚の行動把握のための水産試験場、  
長崎大学によるバイオテレメトリー調査



# その他の取り組み

## 鹿児島県高山漁協青壮年部との情報交換



宿 民 業 営  
海洋荘

藻場の再生目指して頑張ります！

